知っていますか？民生委員・児童委員

5月12日は民生委員・児童委員の日

大正6年5月12日、岡山県で地域の貧困者などの相談に乗るための済世顧問制度設置規程が公布されました。これにちなみ、毎年5月12日を「民生委員・児童委員の日」とし、奉仕活動や広報活動を実施しています。

民生委員・児童委員とは？

民生委員は住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行い、社会福祉の増進に努めるボランティアです。地域の実情に通じている人が望ましいため、町内会長からの推薦で選ばれた後、厚生労働大臣の委嘱を受けます。全ての民生委員は「児童委員」を兼ねています。地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子どもを育てる親の不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援を行います。

また、民生委員・児童委員の中には、子どもや子育てに関する相談を専門にする「主任児童委員」もいます。

区域ごとに定員が設けられ、現在、野々市市全体では99人（うち主任児童委員は10人）、全国では約23万人（うち主任児童委員は約2万人）の民生委員・児童委員が活動しています。

民生委員・児童委員の声

Q：野々市市民生委員児童委員協議会（市民児協）としての今後の展望は？

A：これまで民生委員の活動というと高齢者の見守りの色合いが強かったのですが、児童虐待やいじめ、不登校など子どもを取り巻く深刻な状況を踏まえ、今後は子どもに関する問題がクローズアップされていくと思います。子どもを地域全体で見守り、健やかな成長を支えていくために民生委員として求められる役割を果たしていきたいです。

吉岡　潤さん
野々市市民生委員児童委員協議会会長（丸木）

Q：民生委員に就任したきっかけは？

A：元々能登の出身で、野々市に移り住んできた時に地域に馴染みたいと思い民生委員になりました。同じ地域に住む者同士が互いをよく知り、仲良く助け合う地域をつくり、子や孫のふるさとである野々市をもっと良くするため、この先も長く地域との関わりを持ち続けていきたいです。

高野　外志夫さん
郷地区民児協会長（二日市）

Q：令和2年に民生委員の活動にタブレットが導入されたが、活用状況や効果は？

A：会議へのオンライン出席や委員同士の情報交換にとても役立っています。時間的制約が少なくなり、働きながら民生委員をしている人にとっても活動参加へのハードルがぐっと下がったと感じています。今後、1人1台スマートフォンを持つことが当たり前の時代になれば、住民とより充実したコミュニケーションが図れるようになるのではないかと思います。

吉本　章男さん
富奥地区民児協会長（粟田）

民生委員・児童委員の記章などに用いられるマーク。幸せのめばえを示す四つ葉のクローバー、民生委員の「み」、児童委員を示す双葉を組み合わせて、中央に平和のシンボルのハトをかたどり、愛情と奉仕を表しています。

こんな活動をしています！

【研修会】
児童福祉委員会、障害者福祉委員会、高齢者福祉委員会、生活福祉委員会に分かれて勉強会をしています。

【ボランティア活動】
椿荘での奉仕活動や花鉢配布など地域や社会に貢献するための活動を行っています。

【定例会】
月１回地区ごとに情報交換や情報伝達を行っています。オンライン参加も可能です。

【訪問、地域の見守り】
一人暮らしや高齢者世帯に訪問し、相談を受けるなどしています。地域福祉推進員と協力して、地域の見守りをしています。

【募金活動やイベントへの協力】
赤い羽根共同募金活動への協力や、フードパントリー、障害者スポーツ交流大会などさまざまな事業に参加しています。

取材協力いただいた民生委員・児童委員の皆さん

民生委員・児童委員の声

Q：民生委員に就任したきっかけは？

A：前任者が病気になり、当時の町内会長にお願いされて「1期だけなら」と引き受けました。初めは分からないことだらけでしたが、続けていくうちに楽しさが分かるようになりました。地域の人や他の民生委員さんに支えられて長く続けられています。

田圃　外茂子さん
本町地区民児協会長
（本町六丁目）

Q：やりがいはなんですか。

A：高齢者などの自宅に訪問した時に「来てくれてありがとう」と言ってもらえるとやりがいを感じます。なんでもないことを気楽に話せる相手として、顔を合わせて笑顔になってくれると自分もうれしい気持ちになります。

北本　千春さん
（横宮町）

Q：やりがいはなんですか。

A：初めは、ＰＴＡ会長をしていた延長線上で主任児童委員を引き受け、気が付けば7期21年目になりました。自分の子どもが学校を卒業してから15年ほど経ちますが、関わってきた子どもたちが卒業式で立派に答辞を読む姿を見て感動しました。地域の子どもを小さい頃から見守り、元気に成長する姿を見るとうれしいですし、何より力をもらえます。

宮前　一夫さん
押野地区民児協会長代行、
主任児童委員（押野）

Q：仕事との両立は？

A：民生委員の会議は夜の開催が多いので、日中は仕事・夜は民生委員とうまく時間をやりくりして両立できています。タブレットが導入されてからは、緊急時の連絡対応や委員同士の情報共有がスムーズにできるようになり、働きながらでも活動しやすい環境が整備されていると感じています。

江川　麻樹さん
（本町一丁目）